

いつも大変お世話になり、誠にありがとうございます。

先月は、地元右京区、西京区、亀岡市、南丹市、京丹波町で、毎日ご挨拶に回りました。賀詞交歓会、消防分団の出初式、成人式、餅つき大会などにも寄せていただきました。私としても、皆さんとともに地域の課題に取り組む決意を新たにしたところです。

また、先月20日から通常国会がはじまりました。第三次補正予算案、平成29年度予算案、共謀罪、天皇の譲位など多くの重要な議論がなされています。

去年は、年末の「トランプノミクス」で株式市場が賑わいましたが、総じていえば、「アベノミクス」の行き詰まりもあり、パッとしませんでした。結局、株価を無理やり吊り上げても、消費への効果は限定的でした。官僚主導の円安政策も、長期的に維持することは不可能でした。

政府がいくら頑張っても、世界経済が弱まれば、短期的に景気は陰ります。逆に、政府が頑張らなくても、世界経済が順調であれば、短期的に景気は明るくなります。今年**は、米国、欧州、中国主導で、本来なら我が国の景気も上向くはずですが、トランプ大統領の出現で不安定要因が加わります。**

ひとつは、為替です。トランプ大統領は、これまで「ドル高は米国にとって不利だ」と主張してきました。私の旧大蔵省での経験からいえば、円相場は少なくとも米国の黙認がなけれ

ば、思い通りにはなりません。**安倍総理の「円安頼み」政策が期待できないかもしれません。**

もうひとつは、「貿易戦争」です。トランプ大統領は、就任直後、早速 TPP を永久に破棄しました。米国との自由貿易を嫌う方にとっては、嬉しい話かもしれませんが、そう単純ではありません。**今度、米国から日米の二国間協議で、自動車や農産物の貿易について注文をつけてきます。**

これにより、我が国の一部の産業や農業だけが被害を受けるだけではありません。当然、世界の投資家たちは、こうした事態を予想し、投資行動を変えます。**超円安がさらに維持できなくなるでしょう。株式市場も悪影響を受けるでしょう。**

我が国としては、堂々と自国の利益を主張すべきですが、「一対一」の交渉になると、日米の国力の差はなかなか乗り越えられません。

以前から主張しているように、**異常な円安や金融政策に頼るような政策ではなく、本来、国家がやらなければいけないことを、牛のように、着々と、たゆまず推し進めることです。国力の基本は、人口の規模、国民の教育水準、そして技術です。これらは外国の介入を許さない、不動の方針となるものです。**

引き続き、地元の皆さん、党の執行部、安倍政権に対しても、こうした主張を牛のように、繰り返し、着々と、たゆまず屈せず訴えて参りますので、宜しくお願いします。